



CPDM

Center for Photodynamic Medicine
Kochi Medical School, Kochi University

NEWS LETTER 光線医療センター

2024年 第7号

光線医療センターの委員に消化器内科の宮地 英行教授が御就任

2024年5月に新たに光線医療センターの委員に、高知大学消化器内科学の宮地 英行教授が御就任されました。

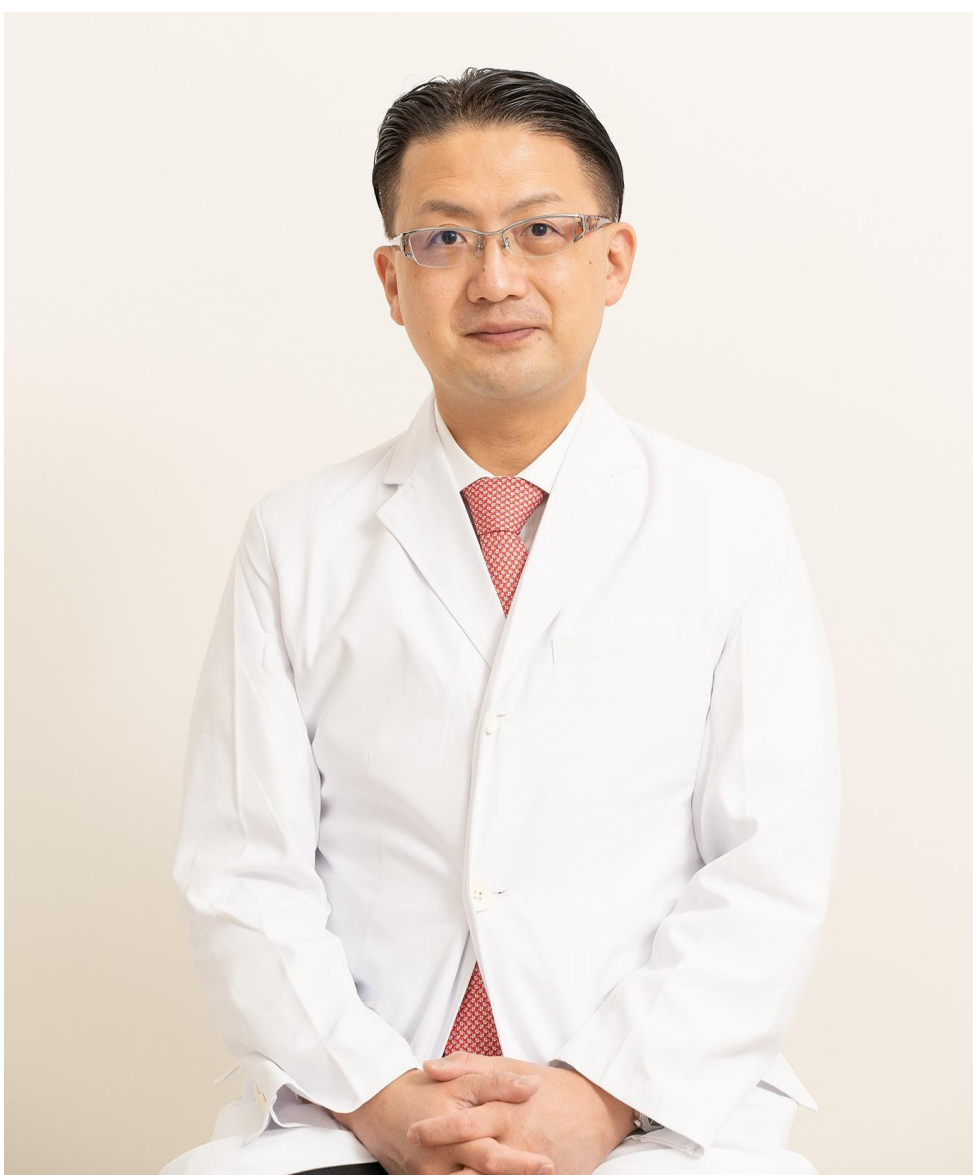
皆さま、初めまして。令和6年5月1日をもちまして消化器内科(胃腸内科・内視鏡診療部)を担当させていただくことになりました宮地英行と申します。

このたびは、光線医療センターのお仲間に加えていただけることになり、井上啓史センター長をはじめご関係の皆さまのご厚意に深く感謝申し上げます。光線医療センターの年報や運営委員会の資料を拝見し、成果と業績の多さに敬服しております。

さて、思い出してみますと光線医療と私の接点が3つありましたので、それらに触れながら自己紹介をさせていただきます。

私は、高知医科大学を卒業後、地元の神戸大学第二内科に入局しました。大学病院を経て、3年目に兵庫県立姫路循環器センターに勤務しました。そこで同じ姫路市内の江尻病院に第二内科の同門の中村哲也先生がエキシマダイレーザーを使われてPDTをされていることを聞きました。指導医の先生に言われて食道癌の患者さんを江尻病院に紹介していました。中村先生はその後、カプセル内視鏡で一世を風靡され獨協医大にご栄典されていきましたが、その頃、講演会や同門会で何度かお目にかかりました。このたび光線医療ということで、私の頭の片隅にあった記憶が久しぶりに蘇ってきました。

姫路での研修のあと、私は神戸大学に戻り、消化器内科の診療の傍らヘリコバクターの研究で大学院を修了させていただきましたが、その頃、第二内科の10年先輩にあたる佐野 寧先生が国立がんセンター東病院でオリンパス社の後野氏とともにNBIを産学共同開発されており、NBIは2006年に上市されました。私も拡大内視鏡による診断学に興味津々の頃で、消化器癌はもとより下咽頭の早期癌の診断にも熱中していました。2007年に心機一転、私は昭和大学横浜市北部病院に移り、拡大内視鏡の開発者の工藤進英先生のもとで約17年間、大腸の拡大・超拡大内視鏡診断や大腸T1癌の治療と取り扱いに従事して、このたび高知に戻ってまいりました。大腸腫瘍のエキスパートである佐野先生には折に触れて可愛がっていただき、今もご指導いただいております。



もう1つの私と光線医療との接点は、2014年頃、共焦点レーザー内視鏡(Confocal laser-induced endomicroscopy)が登場し、私もフルオレセインの適応外使用を倫理委員会に申請して超拡大内視鏡として使用しようとしていましたが、当時の昭和大学横浜市北部病院ではもう1つの超拡大内視鏡であるendocytoscopyの方がカラーで腺腔や核が観察できるということで研究が進んだためendomicroscopyの研究は止まってしまいました。今となっては懐かしく思います。

以上、自己紹介にお付き合いいただき恐縮でしたが、私の経歴上、消化管においてNBIなど特殊光による診断は拡大観察との併用でとても有用なことはよく知っておりますので、他の臓器についても何かお役に立てることができるとは思いません。また、改めて考えてみますと、食道や胃・大腸は現在、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が全盛ではありますが、PDTのような光線力学治療も取り入れることで、より負担の小さい癌治療ができるかもしれないとも思います。是非とも皆さまのご指導を賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。光線医療センターと皆さまの今後益々のご発展を心より祈念いたします。

光線医療センターでは、様々な光感受性物質を中心とする診断および治療を基盤とした高度医療の提供を使命としています。特に内視鏡を用いる光線医療技術は、昨今の発展が目まぐるしいものがあります。今後も、宮地教授による新たな内視鏡を用いた新規医療技術の創出が期待されます。それらの活動を通じて本センターが少しでも貢献できれば幸いです。

光線医療 関連論文

瀬尾 智先生

エキスパート外科医に聞いてみよう

Medical Imaging Projection Systemを用いた解剖学的肝切除の可能性

肝臓クリニカルアップデート 10(1), 128 ~ 131 2024

光線医療 関連発表・講演

筆頭演者 川西 泰広先生

2024年6月7日 第49回日本外科系連合会学術集会

ワークショップ 6 肝切除におけるナビゲーションの展開

「肝切除における ICG 蛍光法を用いた術中ナビゲーション」

筆頭演者 川西 泰広先生

2024年6月21日 第46回日本癌局所療法研究会

主題関連 2 「機能温存・低侵襲化を目指した局所療法」

「当科における ICG 蛍光法を用いたロボット支援肝切除術の導入」

筆頭演者 瀬尾 智先生

2024年6月29日 第36回日本肝胆膵外科学会学

Requested Video 02 Navigation and image-guided HBP surgery

「Utility of ICG fluorescence navigation in hepatobiliary and pancreatic surgery」

筆頭演者 瀬尾 智先生

2024年7月6日 The 11th Summer Seminar in Okinawa

肝臓セッション① ミニレクチャー

「鏡視下肝切除におけるICG蛍光ナビゲーションの現在地」

筆頭演者 瀬尾 智先生

2024年7月18日 第79回日本消化器外科学会総会

ミニオーラル

「肝胆膵悪性腫瘍手術におけるICG蛍光観察の臨床応用最前線」

ランチョンセミナー

「腹腔鏡下肝切除の最前線」

筆頭演者 井上 啓史先生

「光で診て、光で治す～ Photo Theranostics Era ～」

第21回 膀胱温存勉強会 2024/7/19

光線医療センター ニュースレター

2024年 7月 25日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>